

あま市水道事業ビジョン

概

要

版

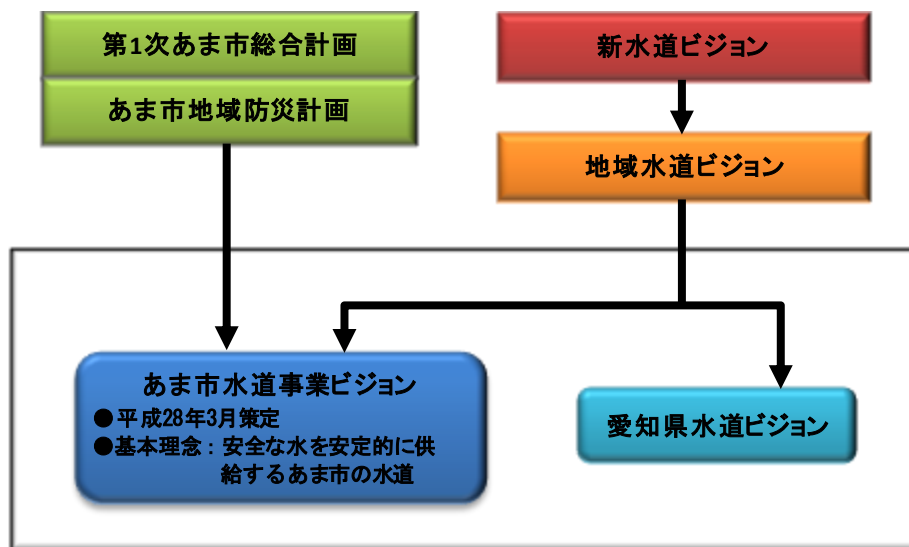
～安全な水を安定的に供給するあま市の水道～

平成 28 年 3 月

あま市水道事業

目的と位置づけ

あま市水道事業ビジョンは、平成 25 年 3 月、厚生労働省が策定した「新水道ビジョン」に掲げられた目標を実現し、あま市水道事業が健全経営のもと、将来にわたって安全で安定した水道水を供給していくことを目的に策定するもので、あま市水道事業のマスタープランとして、事業推進の指針として位置づけられるものです。



基本理念

あま市水道事業ビジョンでは、現状における諸課題を克服し、事業を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、災害に強く、質の高い水道を将来にわたって持続していくため、以下の目標を基本理念として掲げ、取り組むこととします。

安全な水を安定的に供給するあま市の水道

目標年度

あま市水道事業ビジョンでは、あま市水道事業の基本理念の実現に向けて、50 年、100 年後の将来を見据えた適正な施策を立案するため、25 年後となる平成 52 年度を展望しつつ、当面の目標年度は概ね 10 年後の平成 37 年度とします。

目標年度 平成 37 年度
(将来展望期間 平成 52 年度)

対象区域

あま市水道事業ビジョンの対象区域は、七宝地区と美和地区から構成されるあま市水道事業の給水区域とします。

対象区域 あま市水道事業給水区域（七宝地区、美和地区全域）

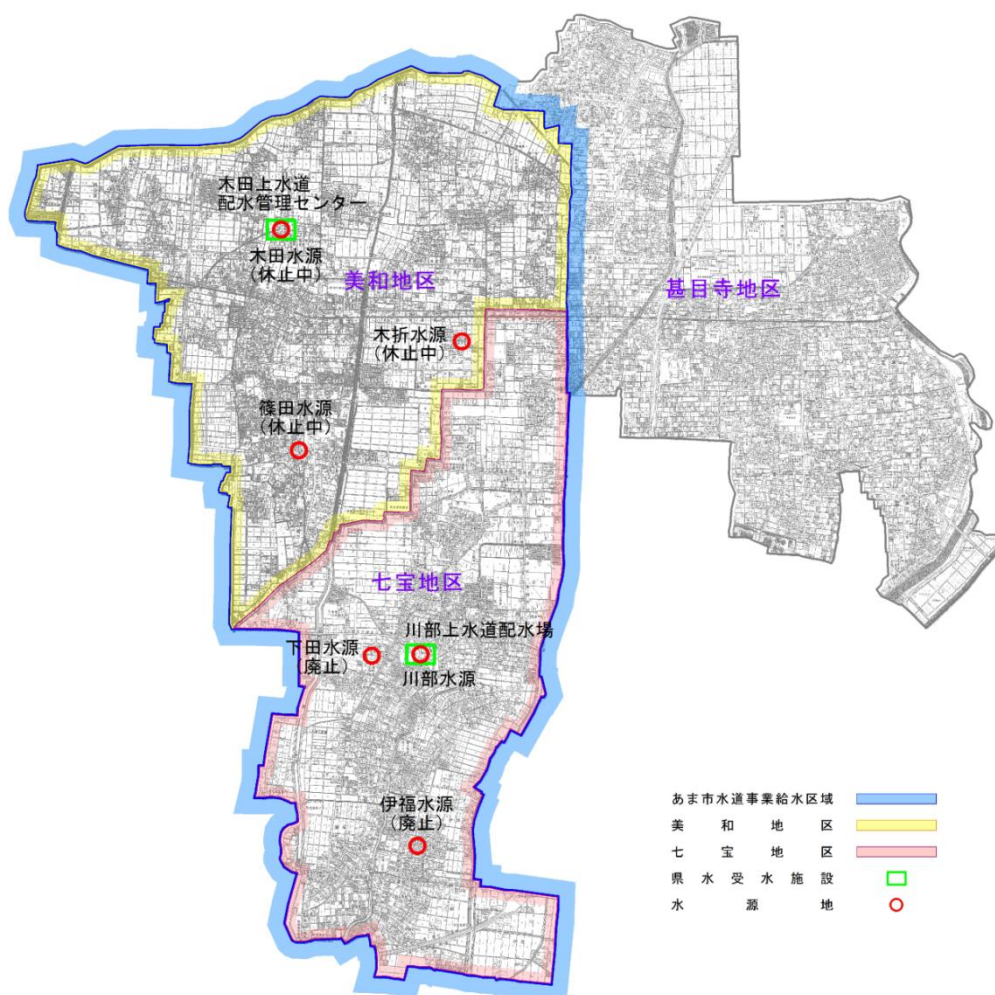
あま市水道事業の概要

あま市には、七宝地区と美和地区を給水区域とする「あま市水道事業」のほか、甚目寺地区を給水区域に含む「名古屋市水道事業」と、同地区内にあり名古屋市水道事業より分水をうけて水道水を供給している「あま市簡易水道事業」の3つの水道事業が存在しています。

このうち、この水道事業ビジョンの対象事業である「あま市水道事業」は、平成22年3月の3町合併に伴い、あま市が旧七宝町、旧美和町の水道事業を法人格の変更により「あま市七宝水道事業」と「あま市美和水道事業」として引継ぎ、その後平成24年3月に両事業を統合し、新たに「あま市水道事業」を創設したものです。

あま市水道事業は、あま市の七宝地区と美和地区を給水区域とし、平成32年度を目標に、計画給水人口47,600人、計画一日最大給水量18,400m³/日とする計画で事業を実施しています。

あま市水道事業の給水系統は、七宝地区と美和地区に分かれており、七宝地区は川部上水道配水場を美和地区は木田上水道配水管理センターを配水・給水の拠点としています



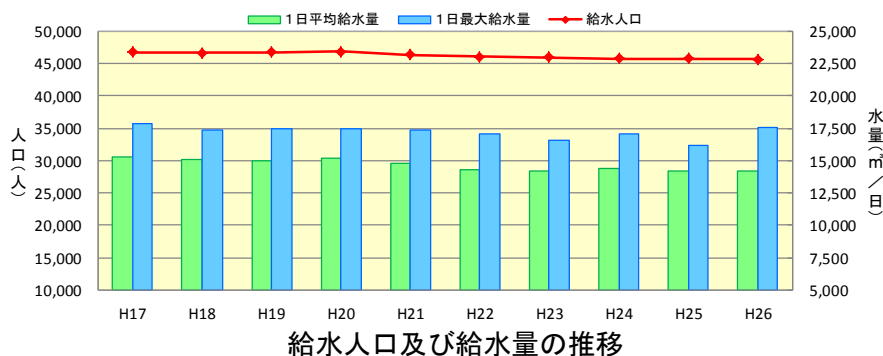
あま市水道事業給水区域図

給水の現状と課題

平成 17 年度から 26 年度までのあま市水道事業の給水実績は下のグラフのとおりです。

給水人口は平成 20 年度を境に微減傾向で推移しており、人口減少のほか 1 人 1 日当たり使用水量の減少もあって給水量は減少する傾向にあります。

配水池などの水道施設は、耐震性能が確保されており、施設の耐震化は必要ありませんが、管路施設については、計画的な耐震化事業の早期実施が必要です。



水質の現状と課題

あま市水道事業から給水される水は、各採水地点において、水質基準に適合した安全で快適な水道水が給水されており、おいしい水の要件も概ね満たしています。

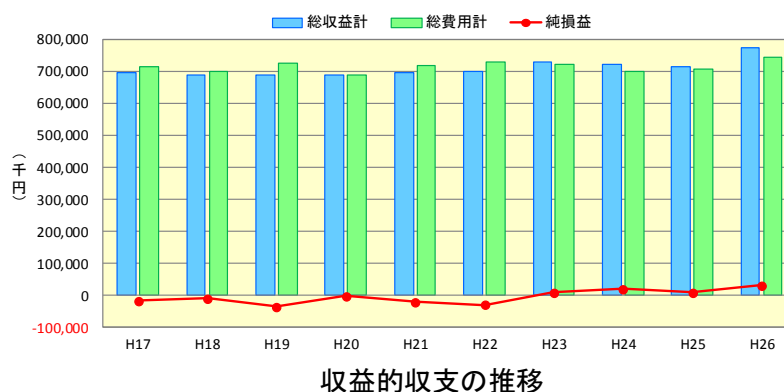
より一層安全で快適な水道水を供給するため、水質管理体制の強化が必要です。

あま市水道の給水水質

おいしい水の要件		判定値	あま市 (H24～H26 平均)
1. 蒸 発 残 留 物	主にミネラルのことです。多いと苦味が増します。	30～200mg/ℓ	61mg/ℓ
2. 硬 度	ミネラルの内、カルシウム・マグネシウムの量です。	10～100mg/ℓ	17mg/ℓ
3. 遊 離 炭 酸	溶け込んでいる炭酸ガスの量です。	3～30mg/ℓ	2mg/ℓ
4. 過マンガン酸 カリウム消費量	有機物量です。多量に含むと水に渋みがつきます。	3mg/ℓ以下	1.8mg/ℓ
5. 臭 気 度	不快な臭いの感じを示します。	3 以下	異常なし
6. 残 留 塩 素	水中に残っている、消毒用に使用された塩素の量です。	0.4mg/ℓ以下	0.4mg/ℓ以下
7. 水 温	冷たいと水はおいしく飲めます。	20℃以下	17.6℃

事業経営の現状と課題

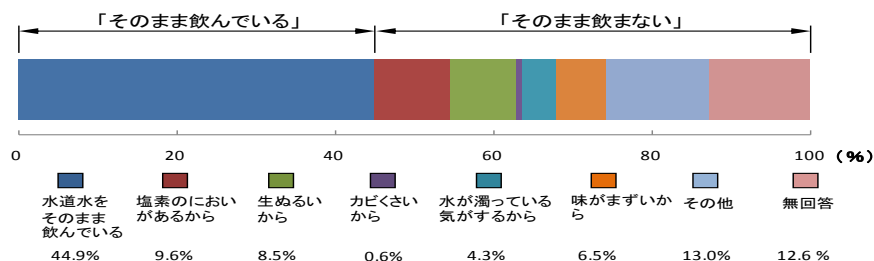
あま市水道事業の収益的収支は、合併後の平成 22 年度までの赤字基調から一転して利益を確保し、黒字基調で推移していますが、総収益の大半を占める給水収益は平成 23 年度をピークに年々減少しています。経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでいく必要があります。



アンケート結果の概要

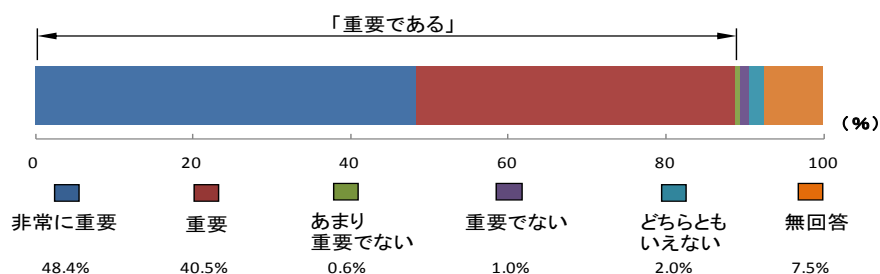
(1) 水道水の飲料状況

水道水を「そのまま飲んでいる」と回答した人は4割強で、「そのまま飲まない」と回答した人は6割弱となっています。「そのまま飲まない」が多い理由としてはミネラルウォーターや浄水器の普及などもあり、水道水をそのまま飲む習慣がない人が多くなっていると考えられます。



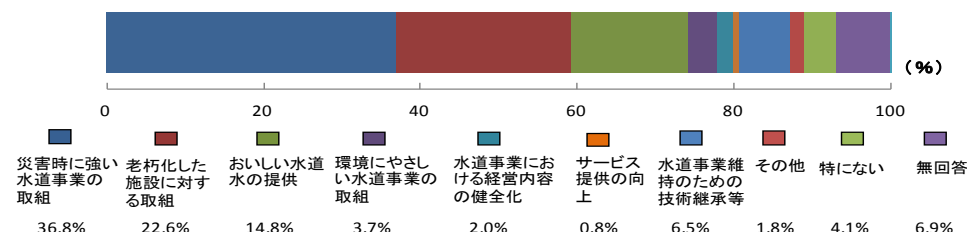
(2) 災害対策について

水道事業における災害対策の重要度は9割弱の人が「重要である」と答えており、特に全体の5割弱の人が「非常に重要」と回答しています。



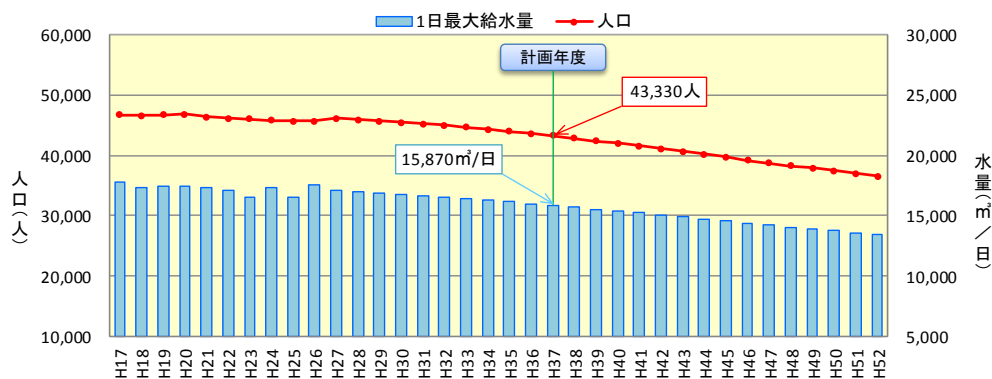
(3) 将来の水道事業について

「災害時に強い水道事業の取組」が4割弱で最も高く、「老朽化した施設に対する取組」が2割強、「おいしい水道水の提供」が1割強となっており、3つの取組で7割強を占めています。



将来需要の推計

過去の給水実績を基に推計したあま市水道事業の給水人口と給水量の将来値は、今後も減少傾向で推移する見通しです。



水道の理想像と施策目標

(1) 水道の理想像

あま市水道事業では水道の恩恵を将来にわたって享受できる水道の構築を目指して「**安全な水を安定的に供給するあま市の水道**」を基本理念に掲げ、「新水道ビジョン」が示す「安全」、「強靱」、「持続」の観点から、事業が抱える課題を解消し、事業を取り巻く将来環境の変化にも的確に対応していくための諸施策を推進します。

(2) 施策の大綱と施策目標

施策の大綱【安全】：安全な水質を保持し、市民に信頼される水道を目指す

● 施策目標

- ・ 水質管理の充実と水質管理体制の強化を図ります
- ・ 水質汚染等に関するリスク管理を徹底します
- ・ より一層おいしい水の供給に努めます

施策の大綱【強靱】：ライフラインとして、災害に強くたくましい水道を目指す

● 施策目標

- ・ 強靱な水道を構築するため水道施設の耐震化を推進します
- ・ 暮らしを支える水道として災害時の給水を確保します
- ・ 津波・洪水・高潮等の水害に備えた施設整備を推進します
- ・ さまざまな災害に備えた危機管理体制を確立します

施策の大綱【持続】：市民の暮らしを支え、持続する水道を目指す

● 施策目標

- ・ 安定した水の供給を図るため、老朽化施設の更新を計画的に実施します
- ・ 地球温暖化の防止等環境保全対策を推進します
- ・ 水道サービスの向上を図ります
- ・ 職員の技術力を高め、組織体制の強化を図ります
- ・ 能率的な経営を持続し、適正な投資と財源確保により経営基盤を強化します
- ・ 水道事業の運営基盤を強化するため、広域化を推進します
- ・ 効率的で持続可能な事業運営を推進するため、官民連携の導入について検討します

(3) 計画期間

あま市水道事業ビジョンでは目標年度に至る 10 か年を短期、中期に細分し将来展望期間を長期計画として位置付けています。

短期計画（平成 28 年度から 32 年度）：緊急性のある重要度の高い事業計画

中期計画（平成 33 年度から 37 年度）：重要度の高い事業計画

長期計画（平成 38 年度から 52 年度）：需要推計等将来展望期間

推進する実現方策

● 安全な水質を保持し、市民に信頼される水道を目指して

施策目標	実現方策	短期計画	中期計画	長期計画
水質管理の充実と 水質管理体制の強化	水質管理体制の強化		事業実施	
	衛生的な水道施設の維持		事業実施	
	施設・機器の巡視・点検の強化		事業実施	
	残留塩素濃度の適正化		検討	事業実施
リスク管理の徹底	水安全計画の策定		計画策定	
おいしい水の供給	直結給水方式の推進		検討	事業実施
	貯水槽水道の適正な管理のための指導		事業実施	

● ライフラインとして、災害に強くたくましい水道を目指して

施策目標	実現方策	短期計画	中期計画	長期計画
水道施設の耐震化の推進	水道施設の耐震化			事業実施
	管路施設の耐震化	計画策定	事業実施	
災害時における 給水の確保	安定供給施設の整備			検討・事業実施
	予備力の増強、応急復旧体制の整備		検討・事業実施	
水害に備えた施設整備	水道施設の浸水対策			検討・事業実施
危機管理体制の確立	危機管理マニュアル見直し	見直し		

● 市民の暮らしを支え、持続する水道を目指して

施策目標	実現方策	短期計画	中期計画	長期計画
老朽化施設の更新	老朽化施設の更新	事業実施	計画策定	事業実施
環境保全への貢献	環境対策の推進	事業実施		事業実施
水道サービスの向上	広報活動の充実		事業実施	
	業務改善の推進		事業実施	
組織・体制の強化	組織・体制の強化		事業実施	
経営基盤の強化	健全経営の継続		事業実施	
	経営戦略の策定		計画策定	
水道広域化の推進	水道広域化の推進		検討・事業実施	
官民連携の推進	官民連携の推進		検討・事業実施	

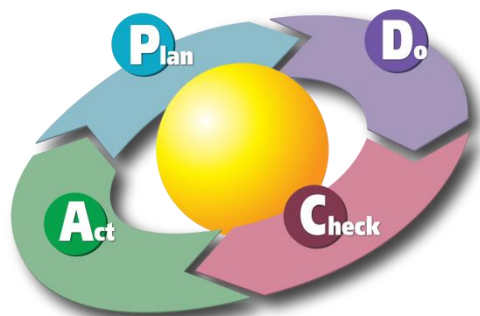
フォローアップ体制

水道事業の各種計画の遂行において、PDCA サイクルの手法を用いることにより、事業実施上の問題点や有効性等を確認しながら、計画の着実な推進を図ることとします。

【参考】 PDCA サイクル

PDCA サイクルは、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つです。

Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善することができます。



あま市上下水道部上水道課
〒497-8522 愛知県あま市七宝町桂城之堀1番地
TEL : 052-441-7115／FAX : 052-441-7137
<http://www.city.ama.aichi.jp/>